

予報期間 12月16日から12月22日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 18日から19日は、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- 20日は、高気圧が日本のはるか東に移動する。低気圧が沿海州からサハリンに進み、気圧の谷が日本海にのびる。
- 21日から22日は、気圧の谷が日本付近を通過し、大陸の高気圧が日本海に張り出す。

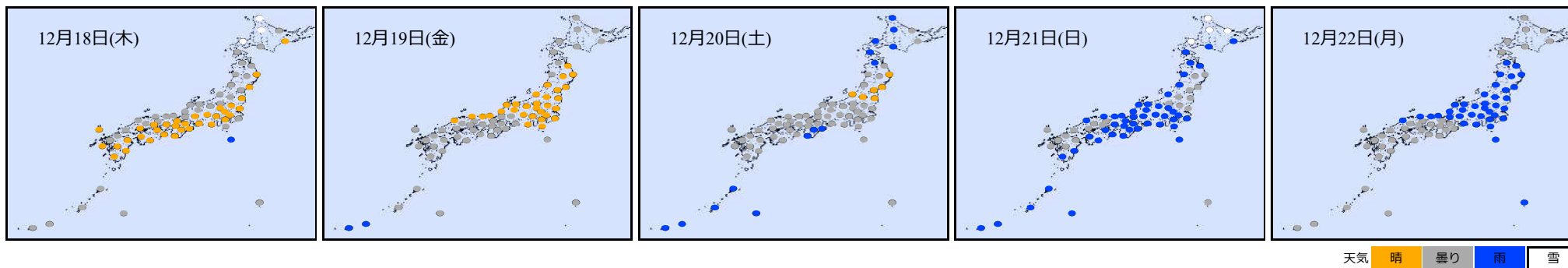
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

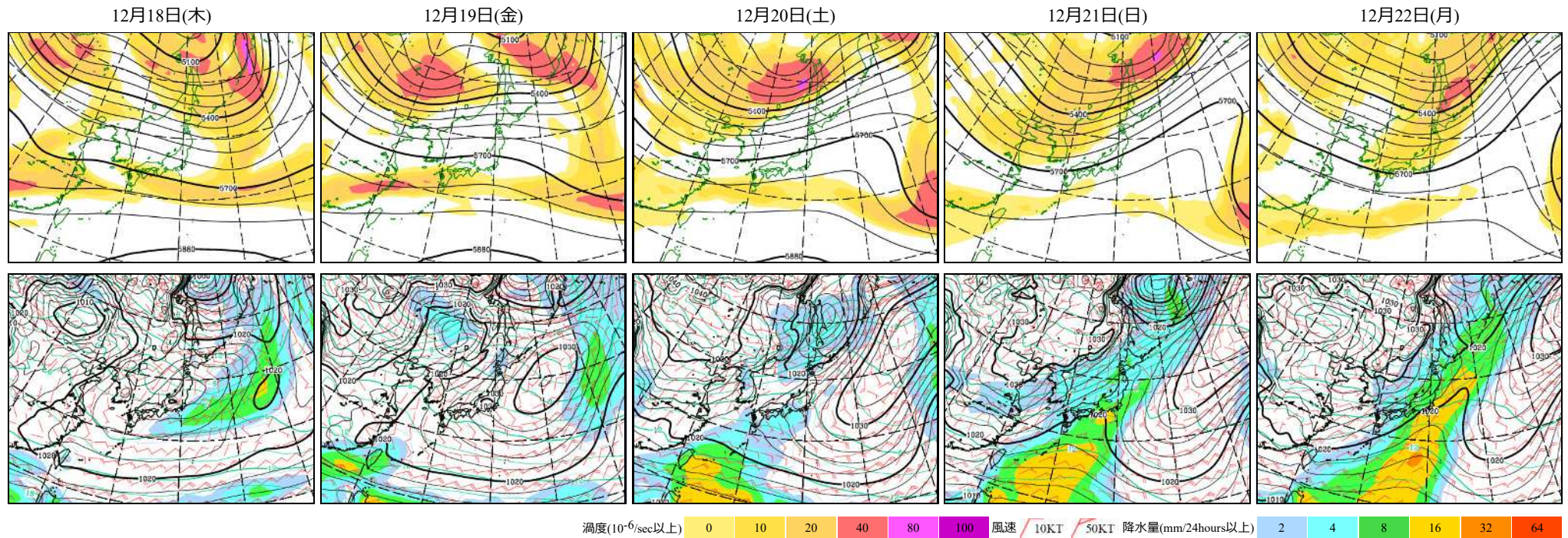
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

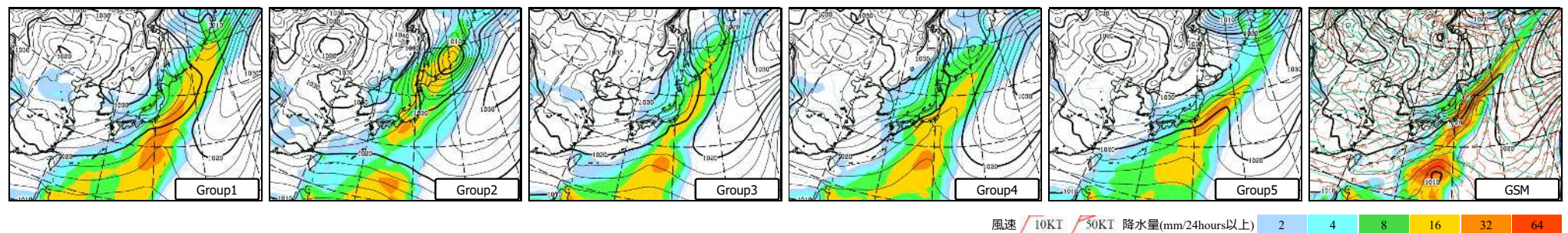


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、19日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが、20日から22日は雨の降る日がある。
- 西日本太平洋側は、18日は晴れる所が多いが、その後は雲が広がりやすく、20日から21日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、19日から21日にかけては雨の降る日がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月22日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、21日から22日に朝鮮半島から日本海付近に進むトラフの東進が早くなった。地上の気圧配置に大きな変化はないが、21日から22日に日本付近を進む気圧の谷の東進が上空トラフの初期値変わりに対応して早くなった。
- 21日から22日頃にかけて、日本付近は広く気圧の谷となって、天気が崩れる予想は各モデル一致している。一方で、上空トラフの深さや位相については、モデル間でバラつきが見られ、天気の崩れ度合いやタイミング等については不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。